

GMB 株式会社

2018年3月期第2四半期

決算説明資料



(電動ウォーターポンプ)

証券コード 7214

<http://www.gmb.jp>

注) 本資料中、当社の業績等に関わる数値は、表示桁数未満切捨て記載しております。
また、「親会社株主に帰属する(当期)純利益」を「純利益」として表示しております。



- I. 2018年3月期上期実績
- II. 2018年3月期通期見通
- III. 今後の対応

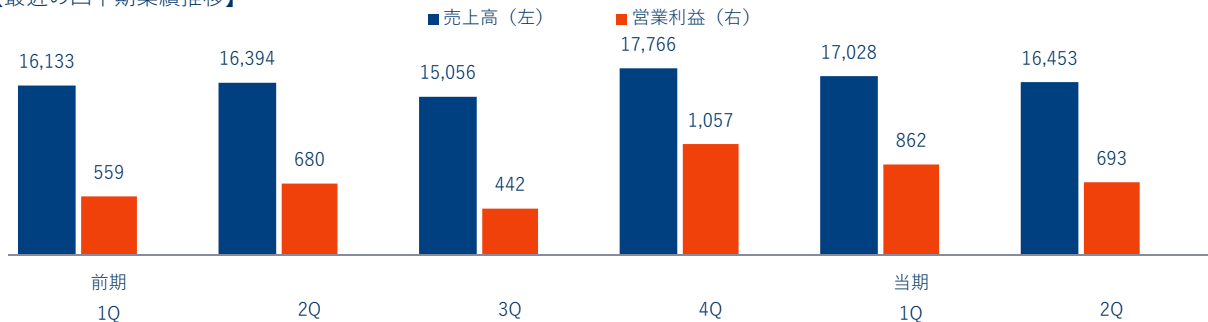
2018年3月期1-2Q 損益実績



(単位：百万円・%)

	前期1-2Q累計		当期1-2Q累計		前期比	
	金額	(構成比)	金額	(構成比)	増減額	増減率(%)
売上高	32,527	(100.0%)	33,482	(100.0%)	954	+2.9
売上総利益	5,681	(17.5%)	6,055	(18.1%)	373	+6.6
営業利益	1,240	(3.8%)	1,555	(4.6%)	315	+25.5
経常利益	961	(3.0%)	1,725	(5.2%)	764	+79.5
純利益	518	(1.6%)	950	(2.8%)	431	+83.1
EPS(円)	99.56		182.31			

【最近の四半期業績推移】

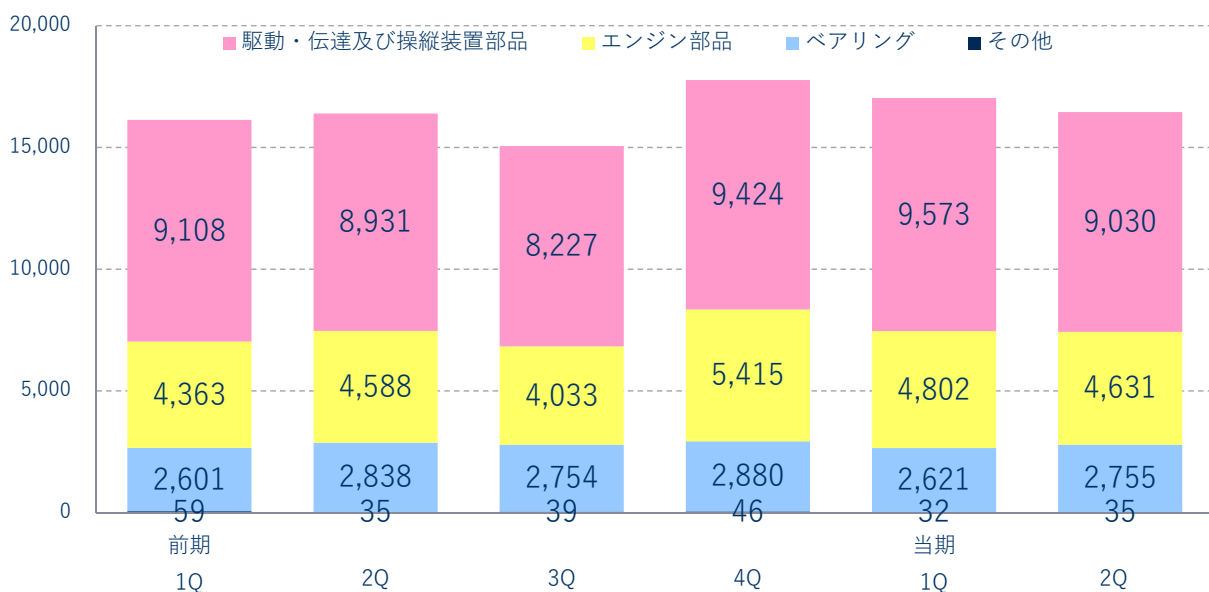


- 3 -

売上高の品目分類別推移 (四半期毎)



(単位：百万円)



駆動系では、補修用・新車用ともにユニバーサルジョイントが増加する一方で、韓国・中国の新車用 A T 部品が減少。エンジン部品では、韓国での電動ウォーターポンプが増加。ベアリングは、韓国からの補修用テンショナー・アイドル・ベアリングの落ち込みを他の製品でカバーし横ばい。

- 4 -

セグメント実績推移①

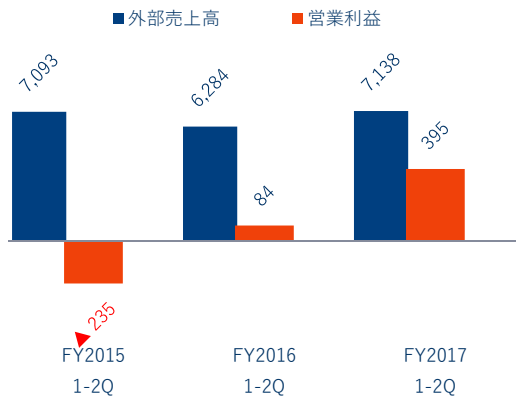
日本・米国



※セグメントはグループ各社の所在地による

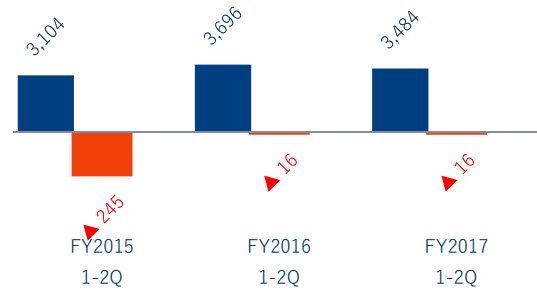
(単位：百万円)

日 本



東南アジアや欧州のユニバーサルジョイントを中心に販売が順調に推移し工場の稼働も改善、前期まで取り組んだ不採算取引の見直しやコスト削減対策の効果もあり、想定以上に利益改善。

米 国



補修用のベアリング製品の減少や全体的な単価減少による売上減少に対し、仕入コストや経費の削減努力でカバーするも、前期並みの赤字に。

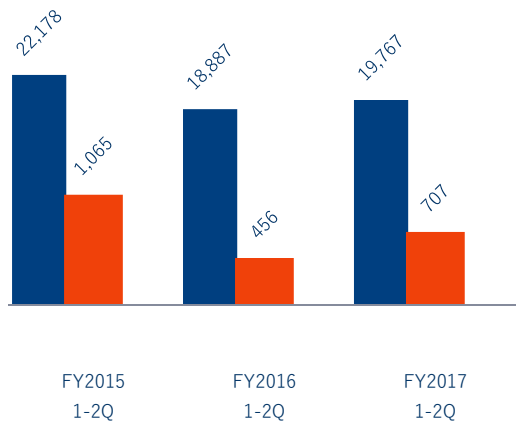
セグメント実績推移②

韓国・中国



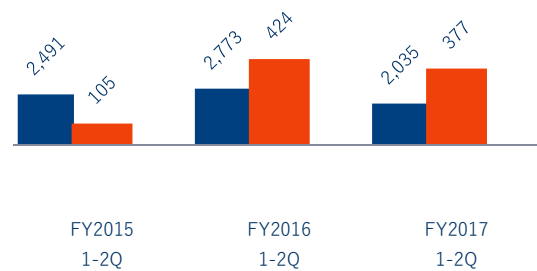
(単位：百万円)

韓 国



新車用AT部品やベアリング製品を中心とした補修用部品の輸出が減少する一方、電動ウォーターポンプや等速ジョイントの売上は増加、調達コスト削減や生産性改善による固定費の削減努力により増益に。

中 国



欧州向けユニバーサルジョイントの生産は順調に推移するものの、中国国内の新車用部品の売上減少が想定以上となり、減収減益に。

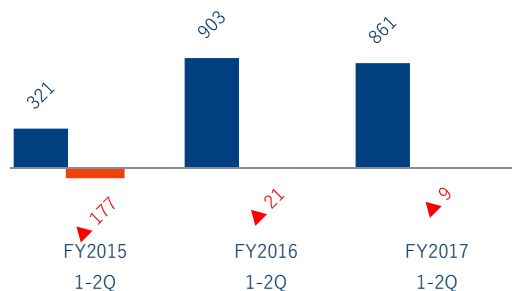
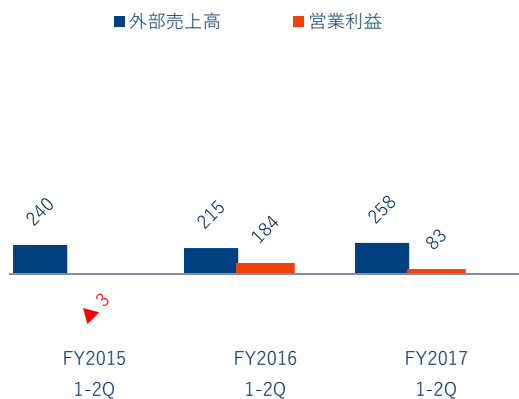
セグメント実績推移③ タイ・欧州



(単位：百万円)

タイ

欧州



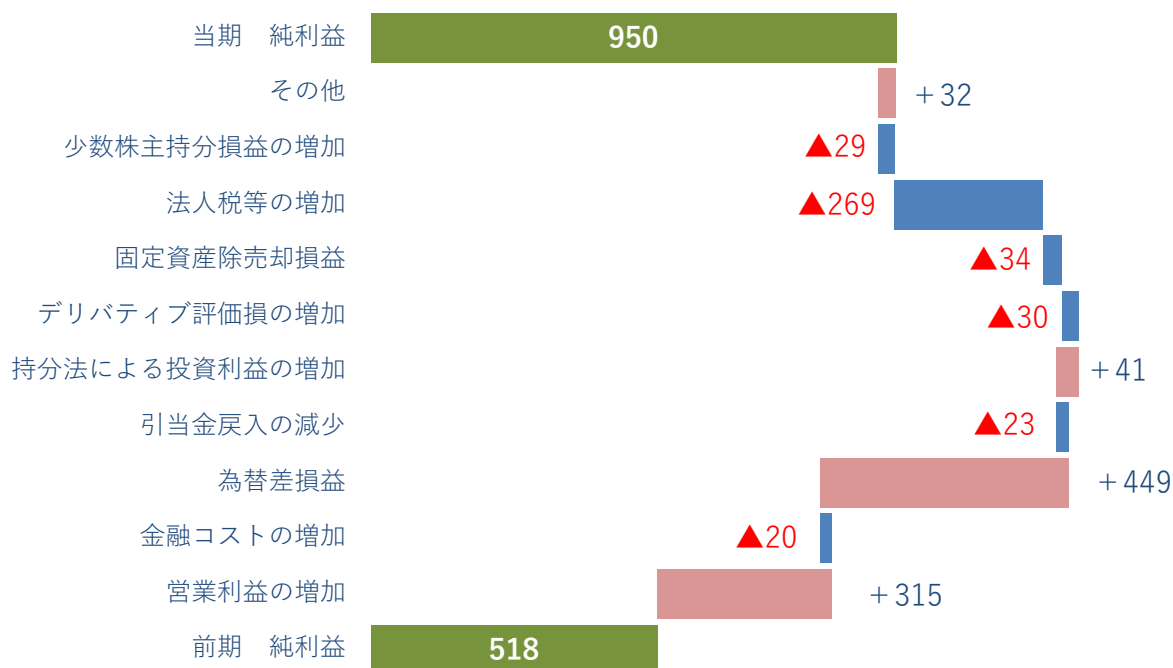
タイ国内の販売は増加したものの、米国向けの補修用ウォーターポンプの生産量減少やメインの日本向け円建輸出取引における円安パーツ高の影響による採算が悪化し、減益に。

ルーマニア工場では、ウォーターポンプの売上が横ばいで推移するなか、現地調達を進めるなどコスト改善により黒字化。一方でロシア工場は国内需要低迷が続き生産活動は最小限に維持するも赤字続く。

営業利益以下の増減要因 (1-2Q)



(単位：百万円)



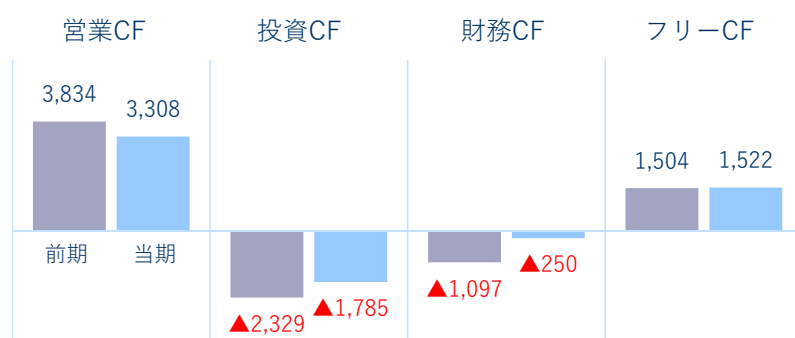
キャッシュ・フローの実績 (1-2Q)



	前期	当期	増減額
営業活動によるキャッシュフロー	3,834	3,308	▲525
投資活動によるキャッシュフロー	▲2,329	▲1,785	544
財務活動によるキャッシュフロー	▲1,097	▲250	847
フリーキャッシュフロー	1,504	1,522	18

【 当期の主な内訳 】

	(百万円)
● 営業CF	
税金等調整前利益	1,708
減価償却費	1,711
為替差損益	63
売上債権の減少	1,577
たな卸資産の増加	▲194
仕入債務の減少	▲1,314
● 投資CF	
設備投資	▲1,582
● 財務CF	
借入金増加	28
配当金の支払額	▲227



I. 2018年3月期上期実績

II. 2018年3月期通期見通

III. 今後の対応

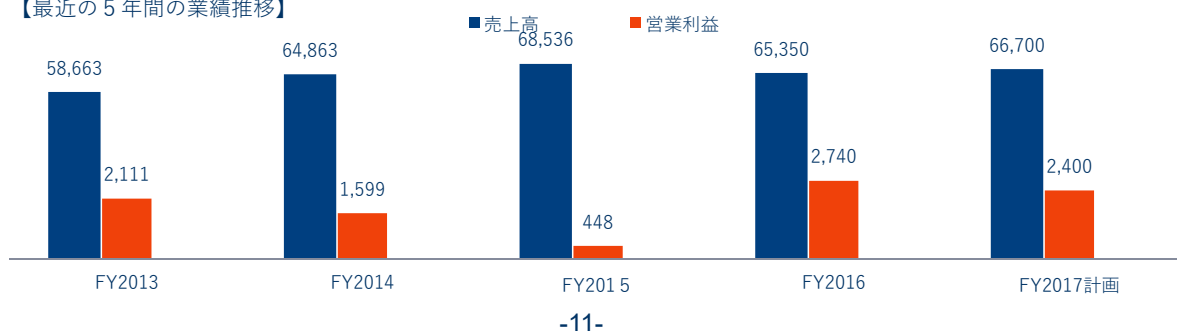
2018年3月期 損益計画



(単位：百万円・%)

	FY2016 (通期実績)	FY2017			前期比
		(1Q-2Q実績)	(3Q-4Q計画)	(通期計画)	
売上高	65,350 (100.0%)	33,482 (100.0%)	33,217 (100.0%)	66,700 (100.0%)	+ 1,349
営業利益	2,740 (4.2%)	1,555 (4.6%)	844 (2.5%)	2,400 (3.6%)	▲ 340
経常利益	2,546 (3.9%)	1,725 (5.2%)	574 (1.7%)	2,300 (3.4%)	▲ 246
純利益	1,444 (2.2%)	950 (2.8%)	399 (1.2%)	1,350 (2.0%)	▲ 94
EPS (円)	277.28	182.31	-	259.06	

【最近の5年間の業績推移】

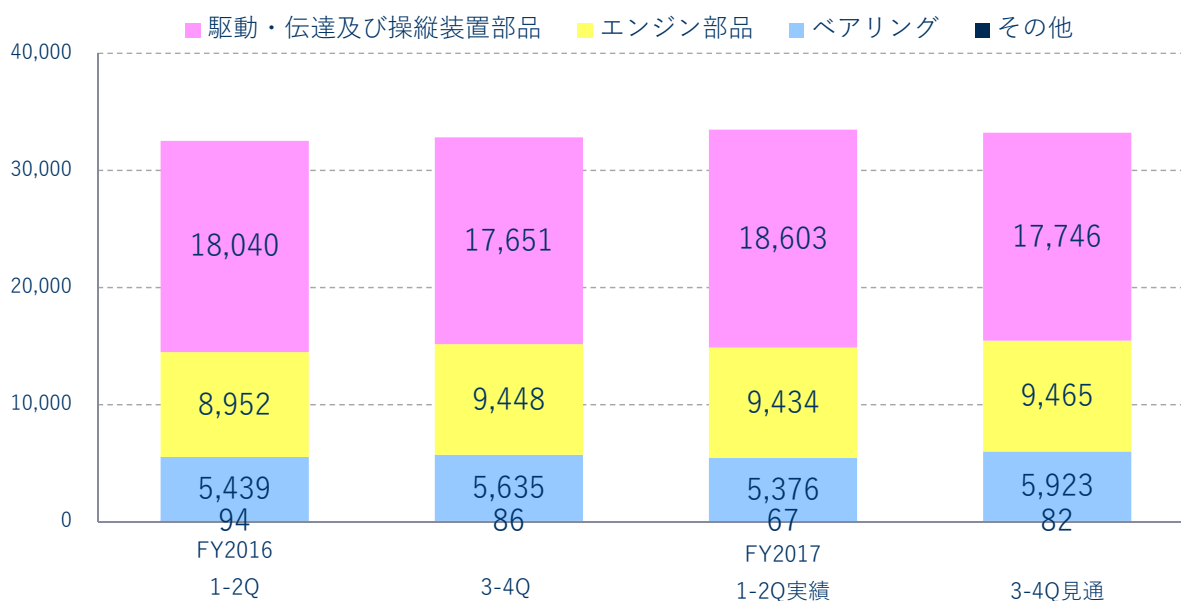


-11-

売上高の品目分類別計画 (半期毎)



(単位：百万円)



駆動系では主要取引先の中国の新車販売動向の影響により新車用向けバルブスプールを中心に上期対比減少を見込む。エンジン部品は中国国内の販売減少に対して、電動ウォーターポンプの増加で横ばいに推移。ベアリングは、韓国から海外輸出や米国内の補修用製品で、販売回復を見込む。

セグメント計画① 日本・米国

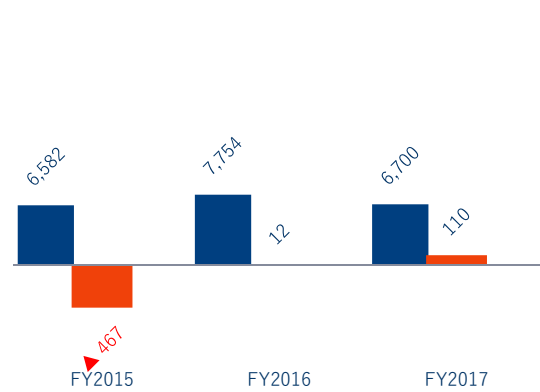
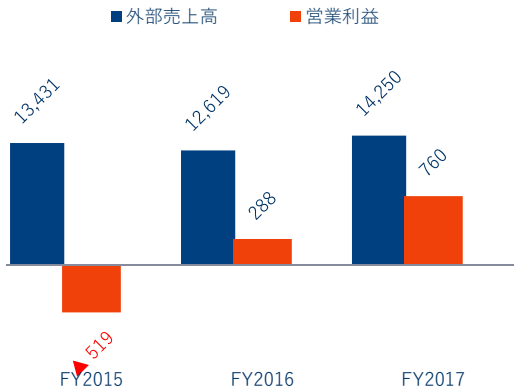


※セグメントはグループ各社の所在地による

(単位：百万円)

日 本

米 国



上期同様にユニバーサルジョイントを中心に販売が順調に推移することで、上期並みの売上・利益を見込む。

下期は大手取引先の在庫調整の影響を受け若干減収となるも、仕入価格、人件費、IT関連費用、物流コストなど全面的にコストを見直すことによる利益改善効果を見込む。

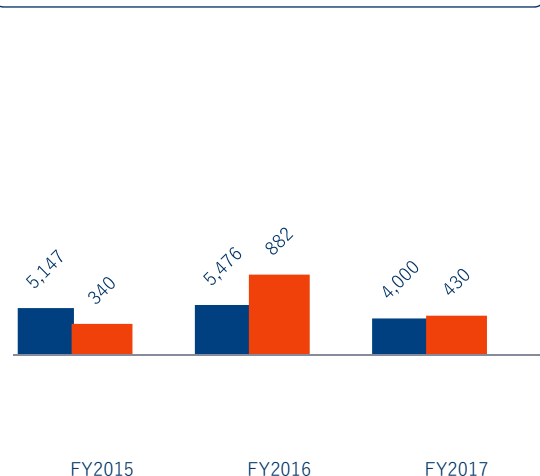
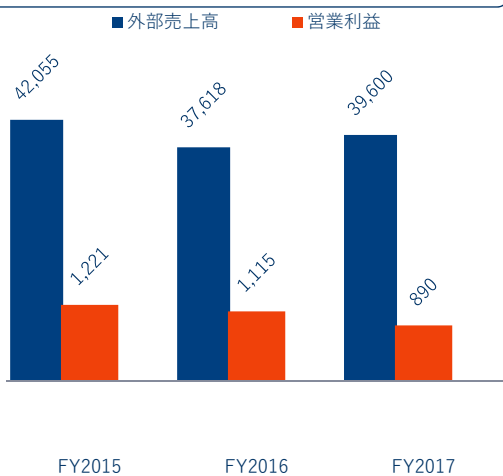
セグメント計画② 韓国・中国



(単位：百万円)

韓 国

中 国



換算為替相場の影響を除けば、主要取引先の中国の新車販売動向の影響も限定的であり、売上高は前期並み。一方で、想定以上の人件費増加もあり、コストダウン努力で一部吸収しつつも、減益を見込む。

主要取引先の中国国内の新車販売動向の影響は想定以上の売上減少を見込む。生産量の減少の影響は大きく、人件費等の固定費増加もあり、大幅な減益を見込む。

セグメント計画③ タイ・欧州

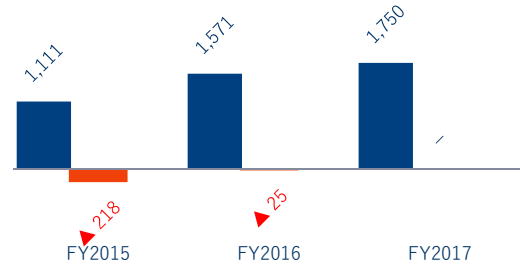
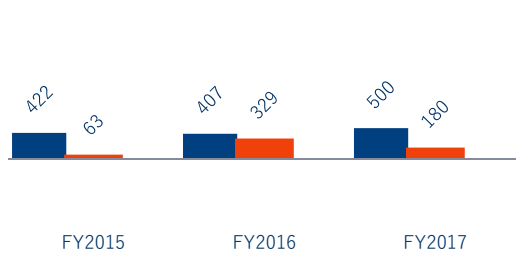


(単位：百万円)

タイ

欧州

■ 外部売上高 ■ 営業利益



タイ国内販売は上期並みを見込む。メインの日本向け円建輸出取引における円安パーツ高の影響による採算が悪化し、減益を見込む。

期初予想通り、ルーマニア工場では生産の安定化と部品の現地調達などコスト改善により採算改善を見込む。ロシアは、外部環境の好転に期待しつつ、最小限の生産活動に限定継続。

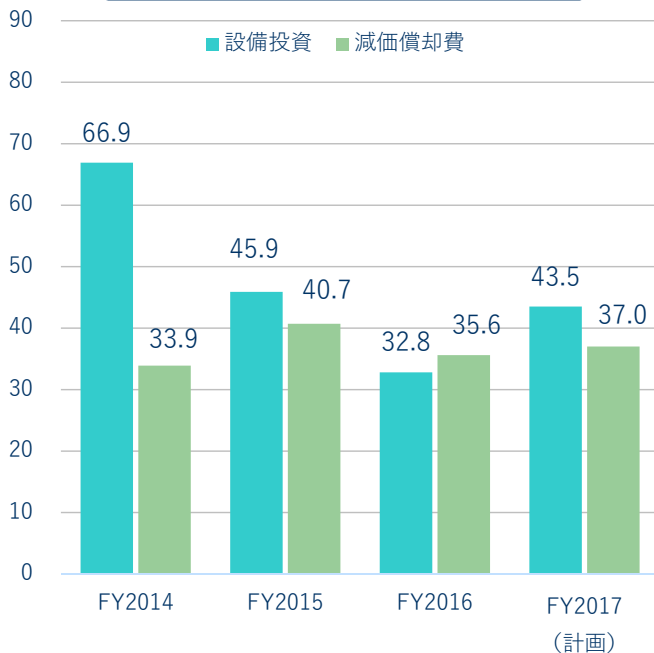
設備投資・減価償却費



(単位：億円)

設備投資・減価償却費の推移

FY2017 設備投資計画の内訳



	投資額 (期初)	主な内容
日本	4.0 (5.0)	維持・合理化
韓国	24.5 (20.5)	新規開発・更新工場新設 等
中国	11.5 (9.0)	増産・合理化 新規開発・環境対応
タイ	1.5 (1.5)	合理化
欧州	2.0 (2.0)	増産
計	43.5 (38.0)	

I. 2017年3月期実績

II. 2018年3月期計画

III. 今後の対応

- 17 -

今後の対応

次の成長の柱を育成

	内燃機関(Gasoline, Diesel)	Hybrid, Plug in Hybrid		EV, FCEV		
車両						

機械部品・精密加工部品

電動化



Spool Valve



Tripod Joint



Universal Joint



Water Pump

研究開発領域

- 電動ウォーターポンプ
- モーター関連製品
- 制御装置

グローバル営業強化



欧州

- ルーマニア工場の増強
- 営業人員拡充



北米

- 大手顧客への納入本格化
- 生産拠点進出の検討



中国

- A T 部品の拡販
- 電動化対応強化



- 19 -

- 将来予想に関連する記述については、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。
- 予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。
- 本資料および当社IRに関連するお問い合わせは、下記をお願いいたします。

＜お問い合わせ先＞
GMB株式会社 経営管理室
電話 : 0745-44-1912
Email : ir@gmb.jp

- 20 -